http://decfamily.p1.bindsite.jp/2016/

We 13R

No.144　16/12/21

地名の歌、恋の歌

　No61～80の百人一首には、たくさんの地名が登場する。順番に挙げてみるので、覚えている人はもとの歌を思い出してみよう。

●奈良の都
●逢坂の関
●宇治（の川霧）
●三室山・竜田川
●高師の浜
●高砂（＊ただしNo73歌では高い山の意）
●初瀬
●淡路島・須磨

　歌には直接表現されていなくても、歌の詞書に地名が含まれているものとしては、
○もろともにあはれと思へ山桜
　　花よりほかに知る人もなし（前大僧正）
がある。『金葉集』の詞書には「大峰に思ひがけず桜の花を見て詠める」とあって、奈良県の大峰山の桜だということがわかる。花のお前の他には、この春の情趣をともにできる人もいないのだという内容である。また、
○ちぎりおきしさせもが露を命にて
　　あはれことしの秋も往ぬめり（藤原基俊）
の「させも（ヨモギ）」は、「しめじが原のさせも草」のことで、自分に任せておけと請け合うことを意味する表現であるが、その中の「しめじが原」は栃木県の地名。歌は、約束してくださり、請け負ってくださった言葉を唯一の頼りとして、露のようなこの命を生きておりますが、今年の秋もまた過ぎてしまいそうですの意。息子が法会で講師の役につけるようにと人に頼み、その人が請け合ってくれたのだが、なかなかそれが実現しないことを悲しんで詠んだ親心の歌である。

＊

　さて、そんな地名の歌の間に、恋の名歌が置かれている。先ずは
○瀬をはやみ岩にせかるる滝川の
　　われても末にあはむとぞ思ふ（崇徳院）
　有名なカラオケのデュエット曲「別れても好きな人」（おとーさん、おかーさんに「知ってるでしょ？」と聞いてみよう…笑）のもとになった歌。テレビで作詞家のなかにし礼さんが、この歌をもとにして作詞したと言っていたのである。カラオケの方はしっとりしているが、この歌は、どんな障害があっても逢ってみせるという激しい恋の歌。その激しさを、滝川のイメージで表現した上三句が、「われても」以下を導く序詞。また、「瀬」「せく」は「滝川」の縁語。「～を…み」という形容詞の語幹の用法は、「秋の田のかりほの庵の苫を荒み～」で話題にした形容詞語幹の用法。暗記しておくとイイだろう。
○長からむ心も知らず黒髪の
　　乱れて今朝はものをこそ思へ（待賢門院堀川）
　二句切れの前半は、永く変わることがないと誓ったあなたの心も、本当のところはどうなのか分かりかねますの意。男性から贈られた「後朝（きぬぎぬ）（男女が共寝した翌朝、各自の着物を着て別れること、またその朝）」の和歌に対する返歌として詠まれた歌だから、恐らく男性の歌には、永遠の愛を誓う内容が詠まれていたのだろう。しかし、それをそのまま信じてよいものか…。そんな千々に乱れる思いが、男と過ごして寝乱れた髪のイメージと重なってくるのである。なかなかなまめかしい作品であるなぁ。